

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年1月16日

1. 職名・氏名 准教授 松岡 孝恭

2. 学位 学位 博士（応用経済学）、専門分野 統計学、マクロ経済学
授与機関 大阪大学、授与年月 2010年3月23日

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 統計学（2単位）1年次
②内容・ねらい 〔内容〕 統計学と確率論の基礎を学び、推定や検定といった統計的推測の原理を習得する。 〔ねらい〕 以下の能力の養成：（1）確率の考え方を理解して基本的な確率分布について確率の計算ができる、（2）点推定、区間推定、仮説検定の原理を理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 全講義回の講義資料を Google クラウド上に掲載し、学生が内容を予習・復習できるようにした。講義では板書により、講義資料の要点を段階的に説明した。数理的な内容を把握しやすいように、比喩を使った説明や身近な事例による解説を行っている。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 計量経済学（2単位）2年次
②内容・ねらい 〔内容〕 2つの変数の因果関係を分析する回帰モデルに関する推定と検定の手法を習得する。 〔ねらい〕 回帰モデルについて理解し、分析手法を自身の問題に応用できるようになる。具体的には、（1）回帰分析の前提となる統計的な考え方が理解できるようになる、（2）モデルから出てきた結論を理解して結果について解釈できるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 全講義回の講義資料を Google クラウド上に掲載し、学生が内容を予習・復習できるようにした。講義では板書により、講義資料の要点を段階的に説明した。卒業論文の執筆やゼミでの研究活動とのつながりを意識して、ツールの活用例や利用における注意点を重点的に説明した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 オムニバス「経済学」（2単位）1年次
②内容・ねらい 〔内容〕 計量経済学や広く実証分析がどのような学問上の目的を持っているか解説した。実証分析の例として GDP 統計を取り上げ、名目と実質、ストックとフロー、ミクロとマクロの視点の違いなどを説明した。 〔ねらい〕 経済データの基本とデータ分析のための基礎知識が身につく。マクロ的な GDP 統計がミクロ的な財務諸表とつながることを理解する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義ではペンタブレットで直接講義内容を書き込み、板書の代わりとした。講義の理解度をチェックするための演習問題を作成し、Google フォーム上で回答できるようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位）2年次
②内容・ねらい 〔内容〕 オープンソースソフトウェアの Python を使って、データを分析していくうえで必要に

なる様々な技法を実習形式で学ぶ。 〔ねらい〕 以下の能力の養成：（１）Python の基本的な使い方を知り、自分でプログラムが組めるようになる、（２）Web 上の統計データからデータベースを作成できるようになる、（３）データ分析の内容を再現可能な形でレポートできるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 全講義回にわたり、データ分析のために必要な Python コードを習得するための問題を作成した（15 回の講義をあわせて 114 題）。基礎的な練習問題の解説を中心に講義を進め、発展的な問題については講義時間中に演習形式で解かせた。作成したプログラムを Google フォームにより提出させ、インタラクティブな講義になるよう工夫した。Python による分析（データの取得、加工、統計量の推計など）を含む期末レポートを課し、習得した内容を論文作成につなげるためのトレーニングを行った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書講読Ⅰ（2 単位）2 年次
②内容・ねらい 〔内容〕経済学の様々な分野を一望できる論文を掲載した Journal of Economic Perspectives から、日本経済に関する論文を取り上げて読んでいく。英語の論文を読み、論述のための英語表現を身につける中で、文章を論理的に読み書きする能力を養う。 〔ねらい〕日本経済に関する学術的な展望論文を読み解くなかで、日本経済について深く理解することができるようになる。論述・論証に関する英語表現に慣れ親しむことで、英語や日本語で論理的に文章を作成することができるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストの段落と 1 文 1 文にそれぞれ通し番号をつけた講義資料を作成。それら番号をつかって議論している論文の箇所がすぐわかるようにした。全講義回にわたり、研究遂行と論文執筆のために必要なスキルを習得するための問題を作成した（15 回の講義をあわせて 75 題）。論文の内容を解説するとともに、毎回設定したテーマに即した問題を解かせて、どのような点が論文の読解に必要なのか明示的に示した。学生が作成した解答を Google フォームにより提出させ、インタラクティブな講義になるよう工夫した。学んだ論文執筆のためのスキルを使って、期末レポートでは自身の研究計画書を作成する課題を用意した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（4 単位）3 年次
②内容・ねらい 〔内容〕統計学や計量経済学の分析スキルを身に付けながら、設定した問題に対してデータを使って答えを出し、結果を論文の形にまとめる。その過程で文献の読み方や論文の書き方、プレゼンの仕方などのアカデミックスキルを習得する。 〔ねらい〕実証分析を行い能動的に読み書きする中で、アカデミックスキル（読む、書く、話す力、論理的思考力、データ分析能力）を身につける。また広い意味でのスキル（目的志向、独立した思考力、時間管理能力など）も身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生が選んだテーマが半導体産業の動向であったため、新聞記事や日米の業界団体のサイトを紹介した。世界的な半導体の出荷額のデータや、日本における生産動態統計調査などを使って半導体生産におけるサイクルなどを分析する方法を伝えた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（4 単位）4 年次
②内容・ねらい 〔内容〕演習Ⅰで取り組んだ実証分析の結果を踏まえて、より発展的な分析を行う。また、演習Ⅰで学んだ調査・研究の方法と論文執筆に関するノウハウを生かして卒業論文・ゼミ論文作成に取り組む。 〔ねらい〕実証分析の手法と能動的に読み書きする能力を身につけ、現実のデータから意味の

ある結果を導くことができる。具体的には(1)基礎的な計量モデルを理解し、(2)自分の問いを軸に文献を読み、(3)分析結果を構造的にしっかりとした論文にまとめ、(4)プレゼンで分かりやすく伝えられるようになる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

受講者それぞれが選んだテーマに即して、利用すべきデータや分析方法に関するアドバイスを与えた。論文執筆の際には、段落ごとに内容をまとめることや論文全体で論述を整合的にこなうことなどを中心に論文作成の基礎を講義した。Markdown による執筆を行うため、本学の卒業論文のスタイルにあわせた CSS ファイルを作成した。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0本】
② 学術論文（査読あり）	【0本】
③ その他論文（査読なし）	【0本】
④ 学会発表等	【0件】
⑤ その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

[国・地方公共団体等の委員会・審議会]
福井駅西口地下駐車場指定管理者選定委員

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

情報教育・DX 委員
入試制度検討委員

(3)学内行事への参加

入試説明会（金津高校、2025 年 7 月 9 日）
学問発見講座（藤島高校、2025 年 10 月 24 日）
短期ビジネス講座 2025（2025 年 11 月 29 日）

(4)その他、自発的活動など

大学案内 2025 の写真撮影協力（外書講読Ⅰでの授業風景）